

福岡市役所に「DNA課」という変な名前の部署がある。

前例踏襲、縦割り、規則優先……。そんな役所の体質を遺伝子レベルから変えようと、02年からDNA運動が始まり、04年4月に課が設けられた。

語呂合わせのようだが、DNAには、それぞれ意味がある。

D IIできないという意識を捨てる

N II納得できる仕事を

A II遊び心を忘れずに

遊び心と言えば、年に一

会 考 考 役所のDNA

度、市民志向で業務を見直した実践を発表する会を「DNAどんたく」と呼んでいるそうだ。

このDNA運動の発案者は、同市で経営管理委員を務めていた上山信一・慶大教授(48)だ。

元官僚。外資系コンサルタント会社マッキンゼーでは大企業の経営再建で実績を上げて共同経営者に。学者に転じ、いまは自治体改革に取り組み。

そんな多彩な経歴を持つ上山さんが、大阪市の改革委員会のメンバーになったのは昨年2月だ。

ヤミ年金など職員厚遇にまみれていた市の印象は最悪だった。あつて当然の資料を要求しても「ありません」。都合の悪いデータは改ざんされていた。

久しぶりに会うと、うれしそうに2月の「大阪市カイゼン甲子園」の話をしてくれた。432の改善実践が寄せられたのだという。どこか「どんたく」に似ていておかしかった。

「正常化という意味ではある程度軌道に乗った。でも、DNAまで変えるにはあと3年はかかります」。並大抵ではない。

編集委員・神田 誠司 kanda-s@asahi.com